

さいとう眼科の

小児の屈折検査

*** 精密屈折検査の目薬について ***

目薬を点眼する理由

ものを見る時には、

眼の中の筋肉が緊張してレンズの厚さを変化させてピントを合わせます。

この働きを調節といいます。眼の屈折度はこの調節を休ませた状態で決まります。

小児の場合は調節を休ませることが上手にできません。
従って小児の場合は調節を休ませる目薬を点眼して検査する必要があります。

この検査を怠ったために、
実は遠視であるのに弱視や近視と診断され、
度の合わない眼鏡をしている小児も稀ではないのです。

- * 初めての眼鏡処方、小児で視力の悪い場合や
斜視の場合は目薬を用いた検査が必要になります。
- * 仮性近視(調節緊張)の程度がはっきりわかる検査です。

目薬（検査薬）の使い方

①サイプレジン 当院にて5分おきに3～4回両眼に点眼します。1時間後再検査です。

②アトロピン 1日 2回1滴ずつ7日間点眼して下さい。1週間後再検査です。

注意点

サイプレジン

点眼後、特に近くにピントが合いづらくなります。瞳が開きますので、いつもよりまぶしく感じます。3～4日でこの薬の効果がきれ、自然に戻ります。

アトロピン

点眼後、特に近くにピントが合いづらくなります。瞳が開きますので、いつもよりまぶしく感じます。

副作用として、発熱、口渇感、脈が速くなるなどの症状がまれに生じる事があります。その場合は点眼を中止してご連絡下さい。

この薬の効果がきれるまで、点眼中止から1週間ぐらいかかります。